

図書だより

農業経営高校 令和2年 第4号

秋も深まって冬も間近ですが・・・皆さんは食欲の秋、スポーツの秋、行楽の秋（新型コロナで思うように行きませんが）・・・どんな秋を楽しみましたか？
これからは夜長の季節・・・読書を楽しんでみてね。

2020 読書週間
早くてものんびりでも 自分のペースで読んでみる。道のりは困難でもゴールには何かがまっている。

読書週間標語

ラストページまで駆け抜けて

今回は、「犬」がテーマの本を紹介します

人の心を理解し、人に寄り添ってくれるこんな動物は他にはいない（老人と犬 ジャック・ケッチャム）

犬房女子 著者 藤崎童士

犬、猫の殺処分をする職場のリアルを描いたノンフィクション。
若い二人の女子が動物管理センター（熊本県）で働き始めた。1匹でも多く犬猫の命を救いたい、せめて環境を改善しようと奮闘するのだが・・・知っている人も多いと思いますが香川県は殺処分全国ワーストという現実もあります。なんとか減らそうという動きはありますが・・・殺処分が続く限り誰かがその仕事をしなければいけない。あなたには出来ますか？正直に言うと私には無理です。
そんなにページ数多くないですから読みやすいです。

図書室には面白い文学作品もたくさんあるので探しにきて下さい！

捨てられた命と生きる車いす犬ラッキー 著者 小林照幸

2018年度課題図書 残念ながらこれまで1度も借りられてない本です。
鹿児島奄美群島のひとつ徳之島での1人の男性と犬たちの物語（ノンフィクション）島田須尚さんは犬や猫を飼うのは大嫌いだった。なのに1匹の犬との出会いをきっかけに犬を飼う事になり、車いす犬となるラッキーとも暮らす事になる。須尚さんの生真面目で実直、こまめな性格には感心する。須尚さんは素敵な人だ。犬や猫を取り巻く社会問題や徳之島の伝統文化の話をおりまぜながらなのでなかなか内容の中心に落ち着けず読みづらい面もあるようにも思う。しかしながら やっぱり須尚さんと出会えた寅と車いす犬ラッキーは幸せだろう。人もまた動物を家族に迎えて過ごした時間はとても大切で貴重なものになるに違いない。

それにしても、「命」を簡単に捨てる人がこんなに多いとは・・・

ある犬のおはなし Kaisei

絵本のように読みやすい本です。この本を読む時にはちょっと涙が出そうになります。イラストと文が一緒になって感情や想像力がかきたてられます。物語ではあるけど、でもノンフィクション的です。犬は言葉を発せざるとも人と同じように感情をもつのだと分かってあげられればいいですね。

少年と犬 著者 馳 星周

2020年 直木賞受章作品
この本は是非読みたかったので自分で購入しました。「多聞」という犬が東北から九州まで旅をする。各地で様々な境遇の人と出会いその人の人生に寄り添いながら物語は進んでいきます。最後はやっぱりその運命に涙・・・かな。読みたい人は図書室にあるので読んでみてくださいね。なるほど こんな本が直木賞をとるのかと感じてみるのもいいですよ！

次の2冊も読んでみて..

本当の「頭のよさ」ってなんだろう

著者 齋藤 孝

成績がよいのが「頭のよさ」ではない。自身の「生きる力」を学んでしっかりと育てるのが「頭のよさ」につながる。何の為に苦手で嫌な勉強をしなければいけないのか？

「バスに乗りそこねても（おくれても）
次のバスは必ず来る！
分かりやすく、文字も大き目なので気軽な気持ちで読んでみて下さい。

いつでもどこでも上機嫌・・・
にもかかわらず上機嫌・・・

野食ハンターの七転八倒日記

著者 茸本 朗

野外で採取してきた食材を普段の食卓に活用する「野食」という活動をライフワークにしているそう
で・・・野に生えている草や木の芽やキノコを食べたりする事はある。まあ、ザリガニやヘビを食べるのも聞いた事はある。けど、毛虫食べる？セミは？まさかクリオネも？

食べるととんでもない事になる
キノコや魚も食べたそうで・・・

魅力的な「本」の帯

「本」を選ぶとき、帯の文章に惹きつけられて購入する人も多いと思います。帯は大きな役割を果たしていますね。農経では最近新着図書の帯を裏表紙の隙間に入れています。その小さなスペースに凝縮された魅力的なメッセージを見るのも楽しいものです。

読む前に見るか・・・読んでから見るか・・・

早く返そう！！

図書室からのお願い！！

本を借りたままになっている人・・・早く返却して下さい。
貸出期間 一般図書→10日間 コミック→7日間